

## 第五十回フオト句会優秀作品(27年4月13日)

### 自由題



この一団 北へ帰らず  
ひと稼ぎ 矢澤 正二  
寸 評：図柄も鮮明、句も  
判り易い。毎回こんなフオト句  
に会えたら楽しい。作者の**久々**  
の**ヒット**だ。



風そよぎ ざわめき響く  
**夜竹林** 下山 健夫  
寸 評：青蓮院の竹林のライトアップ  
下から捉えた画像は幽玄さを感じる。  
ただ、句は感心しない。特に下5の  
措辞はヘンチクリン以外のなにもの  
でもない。それでも画像に魅せられ高得  
点を獲得した。作意を押し量ると  
「風渡る夜(よ)の竹林のおぼろかな」  
ぐらいの句が合うのでは？



土筆伸び 煮付けの味や

夜の酒 松田 昌康

寸 評：郊外の空き地に生えた土筆を、腹這いになって撮影する様子が想像できその努力を買いたい。

三段に分かれた句意を整理すると

「伸びすぎた土筆の煮付け夜の酒」



眼力（めじから）を浴びて

歩むや 仕事人 大越 浩平

寸 評：上の写真とは対照的な都会でのスナップ。眼力、仕事人などの個性的な言葉を用いている。

「眼力に追われて歩む仕事人」

<ご参考>

前二作の句にはある共通点があります。

土筆伸び煮つけの味や夜の酒

眼力を浴びて歩むや仕事人

俳人のなかには、「や」という切れ字を単に調子をつけるために中7に用いることを忌避する意見があります。フォト句は俳句ではありませんが、他の言葉が使えれば、それに越したことはありません。

### 今月のリハビリ教室



原 句： 爺バンド 動悸息切れ 何処へやら 三 春

最近はやりの年輩の同志が集まって楽しむバンド演奏。写真はよく表情をとらえているが、「爺バンド」の言葉は、チョット酷い表現では？とのご意見がありました。作者は素直に反省し、自発的に次のように改良しました。

「まだいける 動悸息切れ なんのその」

作者の前向きの姿勢を佳としましょう。

## 付け句

このページはどんな写真にも良い句がつけられるように  
訓練するコーナーです。



今月は池田さんの出題で、満開の桜？の花に鶇（ヒヨドリ）の図です。

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1) 啼くまでとしばし捕らわれ花の畏 | 新田由起子 |
| 2) 若冲の小鳥逃げ出しわが庭に   | 池田 隆  |
| 3) 花よりも団子と鳥も花を喰い   | 松田 昌康 |

寸 評：

- 1) 鳥を囲む花を畏と見立てた。啼くまで待とうと詠った家康の心境か？
- 2) 確かに鶇の肢体は若冲の絵画にありそうである。若冲を持ち出した点にユニークさが見られる。
- 3) 句意が不明確なので下5を「花を喰い」→「蜜を吸い」に変更したい。

(注) 実は、本日の**最高点句**は池田さんの「寝付かれず苦吟を強いる花と鳥」でしたが、出題者の句としては無責任では？との意見があり、入選作が複数の場合は、一作のみ発表という暗黙のルールがあるので残念ながら不採用となりました。